

多摩地域ごみ実態調査(平成27年度統計)を発行しました

当調査会では毎年度、多摩地域30市町村のごみ処理の実績をまとめ、「多摩地域ごみ実態調査」として発行しています。このたび、平成27年度の統計ができあがりしましたので、概要をご紹介します。

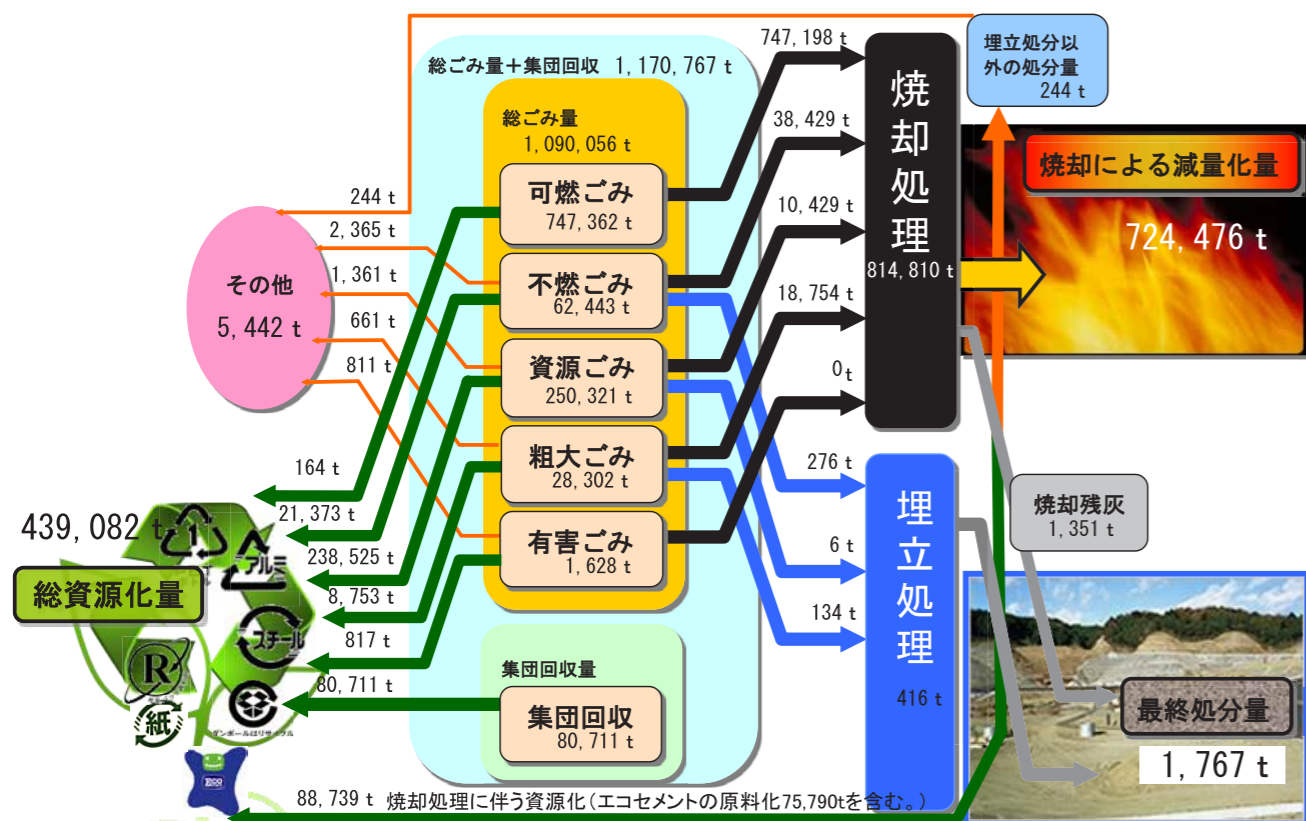
「多摩地域ごみ実態調査(平成27年度統計)」の報告書は、当調査会のホームページ(<http://www.tama-100.or.jp/>)からダウンロードすることができます。

- ・「多摩地域ごみ実態調査(平成27年度統計)」 全54ページ
- ・「多摩地域ごみ実態調査(平成27年度統計 概要版)」 全18ページ

なお、以前の報告書(平成17年度～平成26年度統計)についても、ダウンロードすることができます。ぜひご利用ください。



▶ 平成27年度 多摩地域30市町村のごみ処理の実績



※ 数値データは、その算出に当たり、小数点以下を四捨五入しているため、各内訳数値の合計とその合計欄の数値が一致しない場合があります。

総ごみ量

平成27年度の総ごみ量(家庭ごみ及び事業系ごみ)は1,090,056tとなり、前年度に比べて0.8%減少しました。主な内訳を見ると、可燃ごみが747,362tで前年度に比べて0.9%減少、不燃ごみが62,443tで前年度に比べて2.2%減少、資源ごみが250,321tで前年度に比べて0.4%減少しました。

1人1日あたりのごみ量

1人1日当たりのごみ量(集団回収[※]量を含む)は765gとなり、前年度に比べて1.5%減少しました。
※町会・自治会等の地域の団体が、紙類やびん等の資源物を回収し、直接回収業者に引き渡す自主的な資源回収

ごみの資源化

平成27年度の総資源化率(リサイクル率)は37.5%で前年度から横ばい、ごみ資源化率は32.9%で、前年度に比べて0.1ポイントの増加となりました。

◆ ごみの資源化の状況を示す総資源化率(リサイクル率)とごみ資源化率は、次の計算式で求めています。

$$\text{総資源化率(リサイクル率)} = \frac{\text{資源ごみからの資源化量}^{(*)1} + \text{収集後資源化量}^{(**)2} + \text{集団回収量}}{\text{総ごみ量} + \text{集団回収量}}$$

$$\text{ごみ資源化率} = \frac{\text{資源ごみからの資源化量} + \text{収集後資源化量}}{\text{総ごみ量}}$$

※1 分別収集や拠点回収を行った資源ごみ(缶、びん、ペットボトル等)の量

※2 中間処理施設において、不燃ごみや粗大ごみ等から選別された資源物の量とエコセメントの原料に使用した焼却灰の量

最終処分量

最終処分量は1,767tとなり、前年度に比べて28.1%減少しました。内訳を見ると、処理方法の見直し等により、焼却処理施設からの焼却残灰が1,351tで、前年度に比べて5.2%減少、埋立処理された不燃残さ(不燃ごみ等を破碎選別したもの)が416tで、前年度に比べて59.7%減少しました。



編集後記

- 先日、本紙記事4ページに掲載のとおり、島しょ9町村の子どもたちによるサッカー大会等を通じて相互の地域間交流を行う「愛らんどリーグ2016」(伊豆諸島・小笠原諸島地域力創造対策協議会主催)を視察してきました。毎年行われるこのリーグ戦は、東京島しょ地域のサッカーを愛する子ども達が競い合う中で、互いの地域を理解する絶好の機会となっており、たいへん意義のある大会です。出場した12チームは、男女混合で体格も異なるなど様々でしたが、青空の下でチーム一丸となり、懸命にボールを追っていた姿が印象的でした。
- さて、この夏は、猛暑に加え、4年に一度のスポーツの祭典「オリンピック・パラリンピック大会」がリオデジャネイロで開催されました。世界のアスリートたちの手に汗握る競技をテレビやパブリックビューイング等で観戦して、熱い熱い感動の夏を過ごされた方も多かったのではないのでしょうか。
- いよいよ4年後、東京がその感動の舞台となります。今後、リオ大会から引き継いだオリンピック旗・パラリンピック旗をお披露目するフラッグツアーをはじめ、カウントダウンイベント、競技会場の見学ツアー、マスコット・公式ソング等の発表イベントなど、東京全体で多種多様なプログラムが開催され、東京2020大会の開催機運が一気に高まっていくものと思います。
- 本紙記事2ページのとおり、当調査会は、今月19日、「未来に活かそう多摩・島しょ地域のレガシー～東京五輪が照らす多摩・島しょ地域の可能性と展望～」をテーマにシンポジウムを開催します。シンポジウムでは、はじめに「多摩地域の軌跡とオリンピック・パラリンピック後の未来」というテーマで基調講演をいただきます。また、昨年度に当調査会が実施した「2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける多摩・島しょ地域の可能性と展望に関する調査研究」について発表を行います。世界が一つにまとまることのできる「世紀のビッグイベント」が、多摩・島しょ地域に何を残し、それをどう活かすことができるか、考えたいと思います。皆さまのご参加をお待ちしています。
- これらの事業やイベントを通じて、4年後の東京オリンピック・パラリンピックに選手として、または関係者として多くの方が参加することによって、世界中の方々と感動と喜びを共有できることを願っています。(M.M)